

ああ 遠くの空は 晴れている



NO29

南箕輪村教育委員会

広報みなみみのわ 令和8年8月号に掲載されている「あたたかな まなざしで」No5を紹介します。今回の執筆は、教育委員会 唐澤 豊 指導主事です。

【発行の趣旨】

村報「みなみみのわ」に、子育てに関する情報提供コーナーを設け、子どもにとって大切な学びや経験について考えたり、日頃の子どもの関わり方を振り返ったりする契機にしたいと思います。小中学生の子育て中の保護者に限らず、これから保育園に入学するお子さんの保護者、子育ては終わったが改めて子育てについて考えていただける世代の方々からお年寄りの方々まで、**村民全体で子育てについて考え合うコーナー**を創っていかれたらと思います。

(次回予定) 令和8年10月号 南箕輪中の宮澤修司校長先生が執筆します。

「地域の中で 仲間と共に 自分を磨く」ために、子育てについてみんなで考えていきましょう

あたたかな まなざしで

No.5

電柱に育てられた子

教育委員会 指導主事 唐澤 豊



平成の年号が始まってしばらくのころ、ある中学校の一年生の学級担任をした。春の家庭訪問で、1人の男子の家を訪問した時のことである。母親がまず最初に「こやかに語り出したのが、この子は、電柱に育てられたんです。」不思議な顔つきの私を見て、母親は続けた。「母子家庭で、私が遅くまで仕事で帰ってこれない。でもおつちよこちよいな子どもなんです。家の鍵なんか渡しただけで、たいてい失くしてしまふ。親子で家に入れないことになる。だから、家の鍵を渡さないで、この子は家の近くの電柱にある街灯の下で遊んで私を待っていた。だから、電柱に育てられた子なんです。」

三年生になったある日、片手に余る人数の生徒が集団で喫煙したという一報が入った。その中に、「電柱に育てられた子」もいた。すぐに呼びつけて激しく怒った。何やっているんだ、お前は。同じ町内に住むおじいちゃんに「肩を揉もうか」おばあちゃんにも「どつか痛いところはないか。さすつてあげようか」と優しい言葉をよくかけていて「優しい子でありたい」って二人から聞いているぞ。……通りの激しい叱責の言葉が途切れた時、静かにボツリとその子が言った。「先生、みんなと一緒にいたけど、俺だけはタバコは吸ってない。みんなに聞いてもらえればわかると思う。」なんというこた。もう誰にも聞かなくても、喫煙しなかったことは確実な事実と思った。その点についてすぐに謝罪したが、終始私を責めたり罵ったりしないことがかえって胸にいつそうこたえた。

その子はいわゆるテストのあるような教科学習には苦勞する子だった。部活動はソフトテニスを選び、後に県代表の監督を務める顧問のもとで力を伸ばしていった。三年の時のペアは、勉強もできる他のクラスの学級長。県大会でも勝ち進み、いよいよこの試合に勝てば北信越大会に出場という試合で、なかなかうまくいかず先行される展開の中、サイドチェンジの時だった。ペアの生徒は青白い顔をしてひきつった表情。その時その子が「ビビってんじやねえぞ」と言いながら、ペアの頭から近くのバケツの水をかけた。続けて「強そうとか負けそうとか、そんな先のことを考えてビビるな。やってきたことしかできねえし、それを出しやいいじゃねえか。」と言った。その後、相手の三本のマツチポイントをし、逆転して勝った。顧問は、「すごい場面立ち会わせてもらった。もう、勝ち負けとか関係なく、思い切りやってこい」くらいしか言えなかった。初めての体験だった。「そう話した。」

母親にどうやって育てたかは聞かなかった。ただ、「電柱の所で待て」と言わなかったことは確かだった。どうして温かく迎えてくれる祖父の母の所で待たなかったか、その子に聞かなかった。ただ、その子は街灯の下で母親を待つ選択をしたことは確かだった。厳しくても苦しくても現状を受け止め、自分のできることをするよう「街灯の下で育った」子だった。

【このコーナーは、偶数月に、教育委員会スタッフと小中学校の担当者が交代で執筆していきます。】